特集「香りを可視化する」
私はこう思う

# 黒髪とマドレーヌ―「香りの美学」の立場から

岩﨑陽子（京都嵯峨芸術大学専任講師）

芸術の立場から言えば「香りを可視化する」ということは、可視化する人自身の生活、文化、教養といったアイデンティティをさらけ出すことだと思う。それは「リンゴ」などの目に見える形の輪郭をなぞる行為とは違い、この区切れ目のない匂いの世界総体に、自らの判断で境界線を引いて「香りの形」を他者に取り出してみせることである。可視化された「香りの形」は、この形を取り出した人自身の文化的背景の影響を受けている。

つい最近、このことを深く考えさせられた象徴的な出来事があった。私はこの年末に京都で、フランス人嗅覚アーティストの Boris RAUX と日本とオランダを拠点に活躍する上田麻希の日仏香りアートの交流展覧会をキュレーションすることになり、そのためのポスターを Boris に依頼した。彼が作成／提案したものは、鳥居のような真っ赤な色を全面背景に、中央に大きく巻き寿司の「海苔巻き」の切り口を正面からとらえた写真を配したものであった。よく見ると、その黒い海苔に巻かれた白いすし飯の中央に、具として見えるのはカマンベール・チーズであった。そのインパクトは抜群で、一度見たら忘れられない強烈な個性を放っていた。私たちが「カマンベール巻き」と命名したこのポスターは、キュレーターの私、日本側の香りアーティストの上田麻希さん、そして私の勤める京都嵯峨芸術大学の Perfume Art Project の学生を巻き込んで一大論争を巻き起こした。日本側はこのポスターは私の企画する香りアート展を「視覚化」したものとしてはあまりにも直截的すぎると批判した。対するフランス側の Boris は日本とフランスの伝統的食べ物、海苔巻きとチーズで日仏の香りの融合を視覚化したのであり、展覧会の内容とは直接関係ないにせよ、香りを的確に表現できていてフランスの友人たちに絶大な支持を受けていると反駁した。この小さなポスター一枚が、人によって香りを何としてとらえ、どのように視覚化するかということの差異をあまりにも鮮やかに切り出したのであった。

フランスは思想的に理性の伝統をもち、食べ物や香りを常にその発生元と知性的に関連付けて「何か『在るモノ』からの香り／匂い」と考える。一方、日本では香りをフェロモンや雰囲気などの「見えないもの、空気感」として抽象的にとらえる傾向性がある。例えば伝統的に日本の芸術・芸道において絵画や書では空間的余白が、また能やお囃子においては時間的間合いが重要視されてきた。時には日本の芸術においては描かれた（書かれた）事象や、発話されている台詞、音そのものよりも、その間の（空間的）余白や（時間的）間合いが重要な意味を持つことがある。これについて 1966 年から 1968 年にかけてフランス文化使節の一員として数度来日し、数ヶ月にわたる滞在で日本各地を訪れたロラン・バルトが著した日本文化論『表徴の帝国』（*L'empire des signes*）は、フランスの哲学者から見た日本文化の粋を示すものとして示唆に富むものであ

る。バルトは日本文化の特徴を「中心の不在」（décentré）と定義した。西洋においては言葉やしぐさはすべて一定の正確な解釈を求める「意味」で充溢している。しかし日本では、絵画、文学、演劇、料理においてさえも一番大切な中心部分が、すっぽりとまるでドーナツのようにくりぬかれて提示される。その空虚に意味をはめ込んでいくのは鑑賞者に委ねられているのである。空間的にも、時間的にも、香りによって余白を作り、中心を消去することによって、かえって人はそこに求心力、何か惹きつけられる磁場のようなものを発見する。

Boris のカマンベール巻きポスター自体が悪かったというのでは決してない（彼は素晴らしいアーティストである）。結局この展覧会のポスターはどうなったかというと、日本（特に京都）で開催されることを考慮して、カマンベール巻きという明白な中心をあえて排し、文字のみの脱‐中心的でミニマルな構成のポスターに作り替えた（図　参照）。これを見て Boris が憤慨していないか不安ではあるが、香りを視覚化する芸術／美学論争の第二ラウンドは、12 月に京都芸術センターの「黒髪とマドレーヌ」展で、日仏二人の作品対決として皆様と共に見守りたいと考えている。

※展覧会情報

**黒髪とマドレーヌ**
**―香りのアート 京都×Paris―**

Boris RAUX／Maki UEDA
curator Yoko IWASAKI

2015 年 12 月 19 日（土）－12 月 27 日（日）12:00 - 20:00

**オープニングレセプション**
12 月 19 日（土）18:00～岩﨑陽子ミニ・レクチャー／19:00～Maki UEDA ワークショップ「京都 LOVE STORY」
20 日（日）14:00～「京都 LOVE STORY 2nd」

**入場無料・会期中無休**

**京都芸術センター4 階和室「明倫」**
**詳細は http://perfumeartproject.com/にて。**